関西大学文化交渉学研究拠点
Aug. 2017 No. 3

関西大学文化交渉学
ICIS NEWS LETTER
ニューズレター

CONTENTS

— 文化交渉の現場
— 東アジア文化交渉学会第 9 回国際シンポジウム開催
— 研究員の活動報告

文化交渉の現場

東南アジアの華人廟の調査のため、2016年秋からシンガポールに来ています。しかし、東南アジア諸国のなかでも、シンガポールの民族文化の多様さに驚いています。まるで文化交渉そのものの現場にいるような感覚があります。

シンガポールは、もともとはイギリスの植民地でした。そのため、ベースとしてはイギリス文化があります。イギリス英語が公用語ですし、２階建てバスが走り、自動車の進行方向も日本と同じ左側です。白人の姿も多いです。一方で、住民は中華系が多く、インド系、マレー系の人もよく見ます。電車に乗っていると、インド系の色鮮やかなサリーをまとった女性、ムスリムのヘジャブをかぶった女性もよく見ます。これだけ様々な民族がバランスよく混在しているのは、世界でも珍しいのではないでしょうか。

宗教文化も多様で、まずキリスト教会があちこちにあります。華人にもクリスチャンが多いです。また、きらびやかなヒンドゥー寺院が建ち並び、大きなモスクもあちこちにあります。さらに巨大な仏教寺院や、津々浦々にある華人廟が、それに加わります。そして教会の近くに華人廟があり、ヒンドゥー寺院の隣が仏教寺院だったりします。多くの宗教建築が並存する形で並んでいます。

シンガポールの休日は日本に比べると少ないのですが、だいたいは宗教がらみです。クリスマスと、ヒンドゥーの重要な祭りであるディーパバリ、それにお釈迦さまの誕生日であるベサクデイなどなど。とはいえ、互いの行事にはあまり関わらない感じです。宗教的には、並存の性格が強いです。

そのため混在施設は少ないのですが、一部、華人の大伯公廟にヒンドゥー系の神々が祀られていることもあります。最近はこの手の廟を中心に調べています。ヒンドゥー寺院も、いろいろ入っていって調べるようになりました。

モスクはやや入るのが難しいのですが、有名なスルタン・モスクなどは開放しているので、こちらは内部を調べることができます。

注意しなければならないのは、モスクもヒンドゥー寺院も、靴を脱いで入らなければならないことです。靴のまま入ると、それは大変失礼な行為になるので、絶対に避けなければなりません。幾つかの中華系のお寺や廟も、靴は脱ぐ必要があります。そのため、お寺や廟に入る前に、必ず確認する習慣がつきました。

（文学部　二階堂善弘）

ベサクデイでごったがえす寺院

大きなヒンドゥー寺院

東アジア文化交渉学会第９回国際シンポジウム開催

去る５月13日、14日の両日、北京外国語大学全球史研究院において、東アジア文化交渉学会2017年度年次大会、及び第９回国際学術シンポジウムが盛大に開催された。大会のテーマは、「グローバル史観と東アジアの知識移動」であり、日本、韓国、シンガポール、中国、台湾、香港、アメリカ、イタリア、ドイツ等のアジアの国と地域及びヨーロッパ、アメリカから、200名以上の研究者が大会に出席した。

大会は、デュッセルドルフ大学名誉教授 Alfons Labish 先生の「ユーラシアにおける知識の移動 vs. ユーラシアにおける知識の交流」と関西大学名誉教授松浦章先生の「清代東アジア海域の文化交流史」と題する基調講演より、１日目の日程がスタートした。（松浦章先生の基調講演の要旨については次の頁に掲載している。）２日目に International Buddhist College 教授 Charles WILLEMEN 先生による「東アジアを超える仏教のつながり」と題する基調講演が行われた。２日間にわたり、160人が下記の分科会のテーマについて研究発表を行った。

1　グローバル史観と東アジア文化交渉学
2　東アジアおよび西洋の観念の移動と相互作用
3　グローバル視野における東アジア諸国の各国史研究
4　近代東アジアの出版および知識循環
5　知識移動における文学・歴史・哲学・翻訳
6　近代東アジアにおける新知識の伝播と旧生活方法の伝承
7　新文化史・新生活史と記憶の研究
8　東アジア知識史研究をとりまく問題

研究者全36パネル、大学院生パネル４パネル、大会参加者：約200名（内訳：USA 1, Italy 2, Germany 1, Korea 6, HK 14, Taiwan 13, China 110, Japan 45 BFSU Young Scholars 14）。

今回の北京大会は、北京外国語大学博士課程の学生を中心に「次世代研究者フォーラム」も同時開催された。

東アジア文化交渉学会は、2006年に関西大学において設立を準備し、2007年５月に第１回年次大会を同じく関西大学にて開催した。東アジア文化交渉学会が提唱する研究理念は主に三つのキーワードにまとめられている。その一は「交渉」である。学会はこの語を通じて、相互作用を際立たせようとする。その二は「環流」である。これは知識の流動の複雑性を意味している。その三は「周縁」である。周縁から中心を観察し、周縁資料から核心を解読することである。東アジア研究は、通時的には人類社会の進化の縮図を見るだけではなく、共時的には、脱文化、脱地域、脱領域といった視点から東アジアの世界史における位置と意味を再認識することができる。東アジア文化交渉学会は、各国の研究者に研究資源と交流の場を提供することを目指している。こうした学会の理念は広範な学者たちの支持を得、いまは、500人以上の会員を擁する国際学会へと成長した。

学会の会員総会では、2018年東アジア文化交渉学会第10回国際学術大会は、香港城市大学にて開催する提案が了承された。第10回国際学術大会の詳細は以下の通りである。

テ　ー　マ：「海洋東亜 ── 交流、ネットワークと流動」
（Maritime East Asia ── Network, Exchanges, and Mobilities）
主　　催：香港城市大学中国文化センター
共　　催：香港城市大学中文および歴史系；東アジア文化交渉学会
日　　時：2018年5月12日(土)、13日(日)の両日
参加人数：100名程度
分科会（暫定）
1．交通ネットワークと貨物の流動
2．東アジアのから見た香港
3．移民と文化アイデンティティー
4．文化の生産と再現
5．宗教信仰と儀式
6．知識の伝播と生産
7．冷戦と東アジアの秩序
8．港湾都市

（外国語学部　沈　国威）

研究員の活動報告

1 海外での活動

• 東アジア文化交渉学会第９回国際シンポジウム

基調講演「清代東アジア海域交流史」（要旨）

清朝中国は、台湾を平定した康熙二十二年（1683）に、“海禁”政策である“遷界令”を撤廃し、“展海令”を発布すると、中国帆船は日本や東南アジアの海域諸国に航行し、相互間の文化交渉に大いに貢献している。とりわけ清代の四大帆船と言われる沙船、鳥船、福船、廣船が活躍したとされる[1)]。

長江口の水深の浅い海域や沿海で活動したのが平底型帆船の沙船である。沙船は運河や沿海の内洋を得意とする推進力のある帆船として登場し、長江口から北のいわゆる北洋海域において特に活動した。長江口から江南産の土布である棉布や茶葉などを北洋海域の山東半島沿海から渤海沿海の華北や東北沿海の諸港口へ輸送し、東北産の大豆・大豆油・豆粕（豆餅）などを長江三角州の地域にもたらした。これによって江南の農業経済に大いに貢献したのである[2)]。

鳥船：西川如見『増補華夷通商考』

沙船：西川如見『増補華夷通商考』

鳥船は主として福建沿海において造船され、外洋航行を得意として、日本や東南アジアにも進出したとされる。とりわけ18世紀中葉から19世紀後半までの中国と日本の長崎を結ぶ重要な帆船となった[3)]。日本の記録には鳥船の姿を描いた絵図が多く残されている。江戸時代の日本ではこれらの船を“唐船”と呼称したが、その姿の多くが鳥船であった[4)]。福船や廣船に関しては名前の通り、福建や廣東で造船された大型の外洋航行船であるが、その記録は決して多く残されていない。

清代帆船による長崎貿易は定期的に持続され、清代帆船が長崎に入港するとほぼ４箇月ほど滞在していた。この４箇月間に一艘につき100名ほどの乗員が長崎に滞在していたのである。これら清代帆船は、長崎に大量の砂糖や漢方薬剤をもたらした。

これに対して同時期の琉球は中国の朝貢国であったことから、毎年のように琉球王朝から派遣された朝貢船によって中国産品が持ち帰られた。その内容の共通するところは、両国共に中国に求めたのは漢方薬剤であった。しかしそれ以外の産品は大きく相違していた。清代帆船は数ｍの帆柱を有し海上航行の必要上から多くの底荷物即ちバラストに相当する物を欠くことが出来なかった。中国からはそれに相当したのが砂糖で、日本から中国へは銅や乾物の海産物があった。

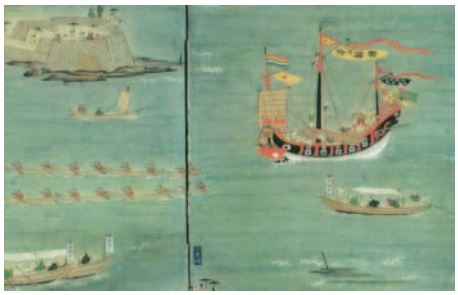
琉球の朝貢船が中国へ銅や硫黄などの朝貢品以外に乾物海産物をもたらしている点は、清代帆船の帰帆荷物として日本から中国に持ち帰ったことに類似している。しかし、琉球朝貢船は大量の紙類や茶葉を琉球にもたらした点は大いに相違しているのである。日本では茶葉栽培と加工が行われ、中国茶を輸入する状況になかった。また紙類も国内の和紙加工が見られ、中国に特に求める必要がなかったと思われる。そのことを示す例として、日本で出版された書籍が清代帆船によって中国にもたらされていたことをあげることが出来よう。

また中国帆船によって東南アジア諸国へは同地に居住する華人の日用品が多く運ばれ、東南アジア諸国から中国帆船によって米穀が大量にもたらされた。

同じ東アジア海域に位置する島嶼部とはいえ、相互の国の産業構造などが相違すると、同時期とは言えこのように物流に相違が見られるのである。

清代すなわち17-20世紀初頭までの東アジア海域において、中国系船式の琉球国の朝貢船も、那覇・福州間の交流に貢献していた。しかし東アジア・東南アジアの海域において広範囲の航海活動に活躍したのは、主に中国帆船であった。この中国帆船によって中国と日本、台湾、東南アジアの人的、物的交流が展開されていたのである。

（名誉教授　松浦　章）


19世紀の琉球朝貢船琉球交易屏風による（部分）

1）周世德「中国沙船考略」『科学史集刊』第５、1963年４月、34-54頁。
田汝康『中国帆船貿易與対外関係史論集』浙江人民出版社、1-52頁。
2）松浦章『清代上海沙船航運業史の研究』関西大学出版部、2004年参照
3）松浦章『清代海外貿易史の研究』朋友書店、2002年１月。
4）松浦章『清代海外貿易史の研究』2002年参照。

・2016年度夏期次世代グローバル教育学術交流プログラム
@ローマ大学

言語・文化ミックスと時代ミックス

イタリア人学生A「先ほどの発表について話をしたいのですが…。」
中国人学生B「いいですよ。中国語で大丈夫ですか？」
A「中国語はまだあまり話せません。英語はできますか？」
B「英語もイタリア語もできません。」
A「僕は日本語なら大丈夫です。」
B「それでは、日本語で話しましょう。」

以上の会話はフォーラム会場で見聞きしたものです。イタリア人と中国人の共通語が日本語だったという出来事に衝撃を受けました。

発表言語は英語でしたが、内容は中国語や日本語、ベトナム語など多様な言語、各国の歴史や宗教についてなど様々でした。日本語しか理解できない私は、時々聞き取れる単語を頼りに、内容の理解に努めましたが、力及ばず…。しかし、冒頭で紹介したような場面を見聞きしているだけで大変興味深いものでした。２日間のフォーラムで、これまでにない多様性を体験できたことが、私の最大の収穫となりました。

フィールドワークでは、私の研究テーマである「展示」を見学しました。ローマ市内には大小の博物館が隣接しているため、約３日間で11の施設を訪れることができました。特に興味を抱いたのは「現代の感覚で魅力を伝える」展示スタイルです。最も象徴的なのはフォロ・ロマーノであったと思います。古代ローマ帝国時代の資料が現代の感覚で「かっこいい」と思えるように、配置や什器の素材、照明の当て方など展示デザインに工夫が見えました。古い物を古いままに見せるのではなく、現代にも伝わるように魅力を発信していることに関心を持ちました。また、施設外に視野を広げれば、新古典主義の建築や中世の宮殿、現代のビル群が見え、ローマの長い歴史が現代の風景として一体になっていることに感動しました。

最後になりましたが、ご指導・ご引率いただきました先生方、そして渡航準備や練習に協力してくれた学友に、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

（東アジア文化研究科　中谷ゼミ Ｄ２　原田喜子）

編｜集｜後｜記

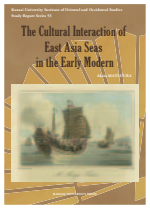
関西大学文化交渉学ニューズレター第3号をお届けします◆今号の巻頭言は、在外研究で滞在中のシンガポールからの現地報告です◆文化交渉学会年次大会では186人もの研究者が研究発表を行いました。ここ最近はアジア圏のみならず欧米からの参加者や会員の増加が顕著です◆その基調講演では東アジア海域研究の第一人者の講演に来聴者が多数集まりました◆院生フォーラム出席のために訪れたローマについての報告は次世代研究者の視点が効いています◆文化交渉学会年次大会は来年第10回目が開催されます（編集者）

表紙右上掲載写真：
【左上】ローマ大学、【右上】第９回東アジア文化交渉学会にて（左から）李孝悌（香港城市大学）、李雪涛（北京外国語大学）、内田慶市前会長代表の三氏、【左下】フォロロマーノからの風景、【右下】ジャカルタのワヤン博物館の人形

2 図書の出版

■ 関西大学東西学術研究所研究叢刊

The Cultural Interaction of East Asia Seas in the Early Modern
松浦　章 編著
2016年9月30日発行／240ページ



■ 関西大学東西学術研究所資料集刊

北京官話全編の研究
—付影印・語彙索引　上巻
内田　慶市 編
2017年2月15日発行／756ページ

新聞「泊園」
附　記事名・執筆者一覧・人名索引
吾妻　重二 編著
2017年3月30日発行／444ページ

■ 関西大学東西学術研究所研究叢書シリーズ

周縁アプローチによる
東西言語文化接触の研究と
アーカイブスの構築
内田　慶市 編著
2017年1月10日発行／198ページ

近世近代日中文化交渉の諸相
井上　克人 編著
2017年3月15日発行／242ページ

■ 外部出版による研究成果報告

勉誠出版　アジア遊学206号
宗教と儀礼の東アジア
交錯する儒教・仏教・道教
原田　正俊 編
2017年3月15日発行／245ページ

発行：関西大学文化交渉学研究拠点
（Kansai University Institute for Cultural Interaction Studies）

〒564-8680　大阪府吹田市山手町3-3-35
TEL：06-6368-0653　FAX：06-6339-7721
E-mail：touzaiken@ml.kandai.jp
URL　http://www.kansai-u.ac.jp/Tozaiken/

発行日：2017年（平成29年）8月